

緑の相談所だより

- 60号 -

1999. 10. 1発行 編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

冬に向けての鉢物管理

日時 平成11年10月10日(日)
13:30~15:30

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐藤 文男

定員 50名 無料

冬に向けた洋らんの室内管理

日時 平成11年10月24日(日)
13:30~15:30

講師 旭川らん友会
会長 笠原幸三さん

定員 50名 無料

講

習

会

植物の性質と育て方

日時 平成11年11月14日(日)
13:30~15:30

講師 旭川市緑の相談所
相談員 村田 正一

定員 50名 無料

鉢花と観葉植物の室内管理

日時 平成11年11月28日(日)
13:30~15:30

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野 元雄

定員 50名 無料

お申し込み・お問い合わせは 旭川市緑の相談所へ ☎65-5553

NEWFACE



オセナリ (Nicandra physalodes) ナス科

ペルー原産の一年草。夏から秋にかけて葉のわきに花柄のある下向きの花をつける。花は鐘状で先は開き、径2.5cmほどで、下部しろく、上部青色で午後開いて夕方閉じ翌日散る。がくは花のしぼんだ後におおきくふくらんで、緑のホウズキのような果実をつける。

日本名はセンナリホウズキに似て大形なのでいう。

淡い色合の釣り鐘形の花とめずらしい形の実が愛らしい植物です。ぜひ一度見てあげてください。



動物や鳥の名のつく草花



10 11 月の園芸作業

○ 球根等（掘り上げ、保管、植込）

- ・ダリア ～ 霜で枯れたら掘りあげ、茎を短く残し球根を切り分けずに土を付けたまま1日表面を乾かし、そのまま干からびないように段ボール箱等にいれ5℃前後の場所で来春まで保管します。
- ・ユリ ～ 3年くらいは植えたままで良いが、植え替える場合は茎葉が枯れてから掘りあげ、直ぐ（球根を乾かさない）深めに植え込みます。
- ・グラジオラス ～ 霜で葉が枯れてから掘り上げます、大小に選別し球根を乾かし湿らさないよう、凍らないところで保管します。
- ・チューリップ、クロッカス、スイセン等秋植え球根 ～ 10月中旬までに植込を済ませます。植え穴の深さは球根の高さの3倍、間隔は球根2～3個分
- ・アマリリス（鉢植え） ～ 寒さで葉が枯れ始めたら葉を根元から切り取り、掘り上げて根が乾かないうちに新しい鉢土に植え替え、そのまま5℃前後で2～3ヵ月保管。または掘り上げて紙袋に入れ干からびないように低温で保管、来春植え替え。

○ 鉢物の入室と管理

- ・クンシラン ～ 霜の降る前に入室、8～10℃の場所に60日以上置く。
- ・アザレア ～ 軽い霜が来るまでまで戸外で良い、入室後は低温（10℃以下）の部屋に30日以上置く。
- ・シクラメン ～ 明るい窓辺で、水は常時（球根の上部を濡らさないように）10日に1回液肥を施す、室温は低めに20℃以下が良い。
- ・観葉植物 ～ 早めに入室、以後水は控えめ、肥料は不要、時々葉に霧吹き。
- ・ハイビスカス、ブーゲンビリア等夏が好きな花木 ～ 室内では、温度は十分でもガラスごしの光線では良く育ちません、肥料は施さず、水は控えめ、低めの室温（15℃前後）で管理、春まで待つほうが無難。
- ・短日操作の開始 ～ ポインセチアは50日間以上の操作で開始から約80日程で開花（日中20℃以上、夜15℃前後）。カランコエは30日間、シャコバサボテンは20日間以上の操作で開始から約60日で開花始め、2種とも日中20℃ 夜15℃以下、水は控えめに管理。

○ 庭の清掃と防除

- ・花壇、菜園 ～ 病気や害虫を越冬させないため、枯れた草花や収穫の終わった野菜の株、また雑草なども根から引抜き一ヶ所に集め土に埋め、畑の表面をきれいにします。できればこの時堆肥分と少量の石灰を施し深く耕しておきますと来春は良い畑になっております。
- ・果樹、庭木 ～ 庭木のカイガラムシ、果樹のシンクイムシ、ケムシ等の害虫、ウドンコ病等の病害は落ち葉の下、樹の割れ目、枯れた雑草等に潜み越冬しますので落葉等は丁寧に集め土にうめるか堆肥として積んでおきます。更に降霜後石灰硫黄合剤10～20倍液を樹の幹に、また地面にも散布しておきますと効果的です。

秋から冬にかけての庭仕事 アア・・・お庭の庭仕事編

秋から初冬にかけて庭に出る回数が急に増える時期でもあります。植物にとって休眠・越冬は大変な仕事です。間違わずに作業を進めることがこの時期の庭作業の大事なポイントになります。

●秋の庭整理は無理をしてまでやる必要がない。？

今年のように夏の間高温が続いた年は、植物が弱っていると考えれば休眠の障害になることは出来るだけ避け、スムーズに春を迎えるようにすることは秋の庭仕事の大事な要素の一つでもあります。特に病菌、虫などの越冬個体は残さないようにするために、落枝、落葉は、焼却するか整理することを心がけるべきです。

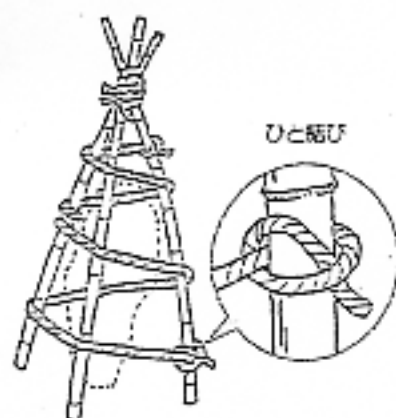
●秋の農薬による防除は、降雪期を迎えるのだから必要はない。春に防除すれば良い。？

今年発生した病菌、虫は来年まで残さないで防除することが原則です。

秋の農薬による防除は、花、実、形につながると考えるのがベストです。



●冬囲いは早めにすませた方がよい。？



植物の生育期や秋に落葉するものであっても落葉しないものなどは、冬囲いの時期ではありませんので、落葉するものは完全に落葉して休眠期に入ってから。常緑のものは完全に休眠期に入ってからが冬囲いの適期です。

●枝吊りの場合1本の縄に2~3枝結んでもかまわない。？

枝吊りの場合1本の縄に1枝が原則ですので、吊ろうとする枝の数だけ縄を垂らし吊すようにします。

